

## 【授業でも「生徒が主体となる」七中を目指す！授業は変わる！】

研究主任 教諭 堀田和恵

来年度から始まる新しい教育（新学習指導要領）では、「どのように学ぶか」という、生徒の学び方に注目した「主体的・対話的で深い学び」の視点から、教師サイドの指導改善と生徒サイドの学習改善の2つが進められます。

そこで、今年度の研究を「自らの疑問をもとに課題設定できる生徒」としました。生徒は、獲得している知識、物事の見方や考え方を生かして、新しい問いを立て、学んだ事柄や様々な資料などから解決する経験を積み重ねます。この学びを連続させて、より確かな理解と学習に向かう、以前とは違う姿を育む授業を目指します。

### 本時の学び

### 【当校の目指す授業モデル】

#### 第1段階：内容をつかむ〔教材との出会い〕

##### 生徒が「問い」をもつ！

- 「不思議だ、なぜだ」「調べてみたい」「調べたことを人に伝えたい」と思うようなしかけを工夫する
- 学んだ知識と技能を生かし、適度な困難さを感じる課題を提示する。

#### 第2段階：考えをもつ〔学習課題の把握〕

##### 追究・解決への手がかりを見つける！

- 「学習課題」と生活体験や学習したことを関連させて、「何を・どのように追究・解決するか」などの計画や見通しをもたせる。

#### 第3段階：考えを深める・広げる〔追究・解決〕

##### 仲間との交流を通して、学習課題を解決する！

- 考えを表現させ、相手の考えを共感的に聞く活動により、考えの広がりや深まりにつなげさせる。
- 物事の見方や考え方、以前に学んだ知識や技能を生かしながら考えさせる。

#### 第4段階：まとめる・振り返る

##### どんな見方や考え方をしたのかも含めて分かったことをまとめる！

##### 分かったことの自信や新たな問いを振り返る！

- まとめと振り返りをさせて、次の学びへ向かう意義を見いださせる。

### 次の学びへ

今年度は、「第1段階－第2段階」に重点をかけて、実践研究に取り組みます。

9月16日(水)、県教育庁下越教育事務所指導主事 小川誠様からお越しいただき、新しい教育と評価方法について教えていただきました。

私たちも、生徒のために研究と研修に努めます。

